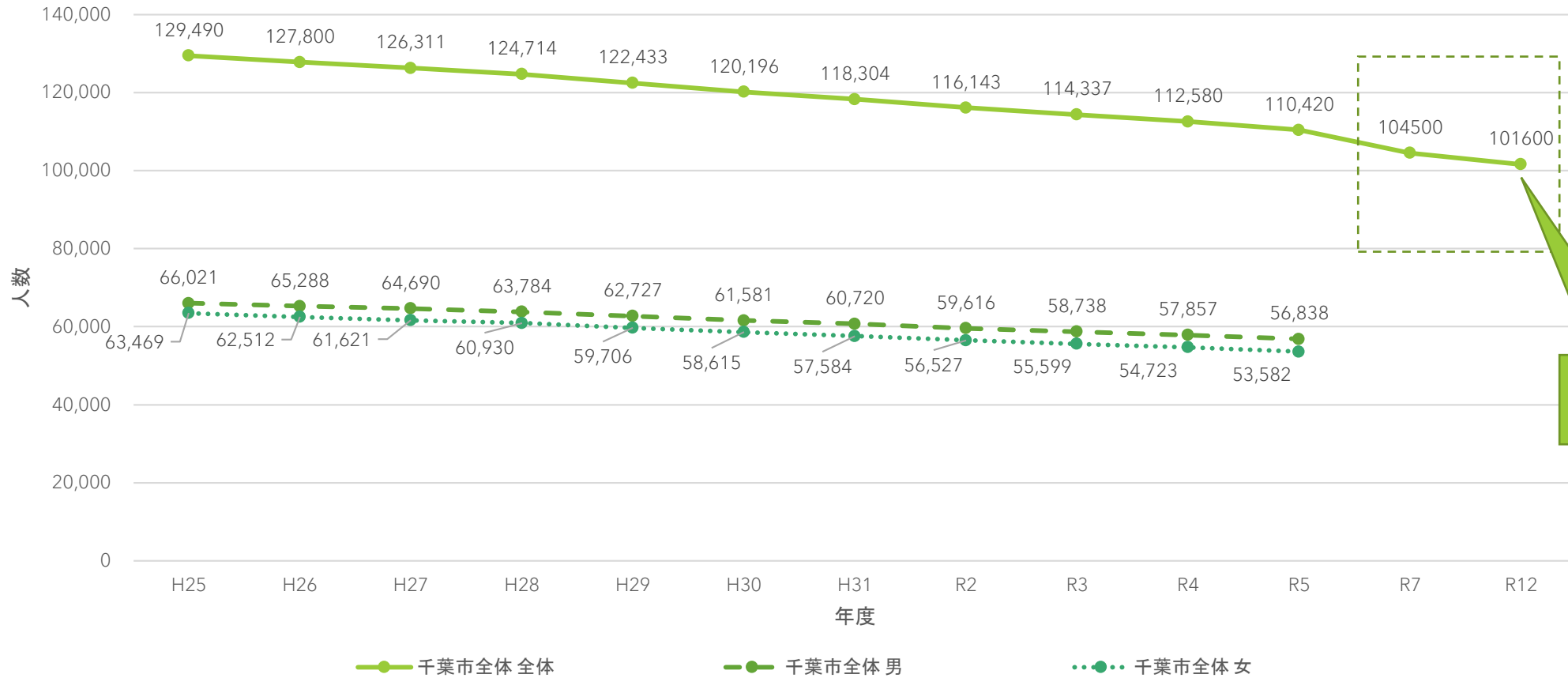


千葉市における 部活動の地域移行に関する現状と課題

2024年5月11日
千葉市・千葉市教育委員会

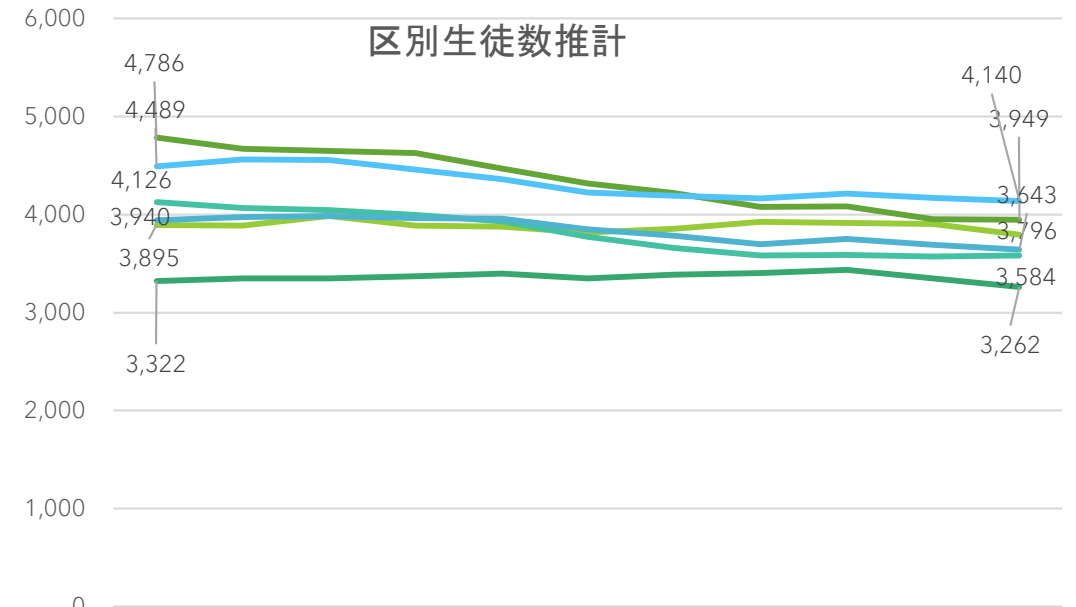
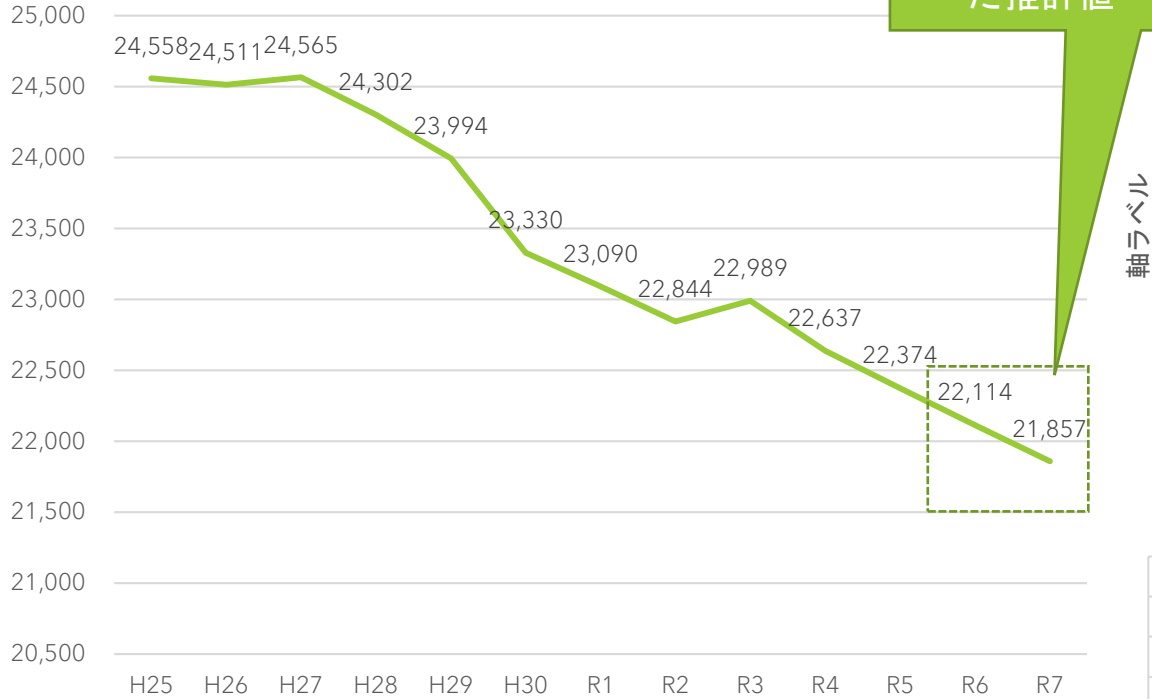
(1) 千葉市の0～14歳人口推計



R7/R12は推計値

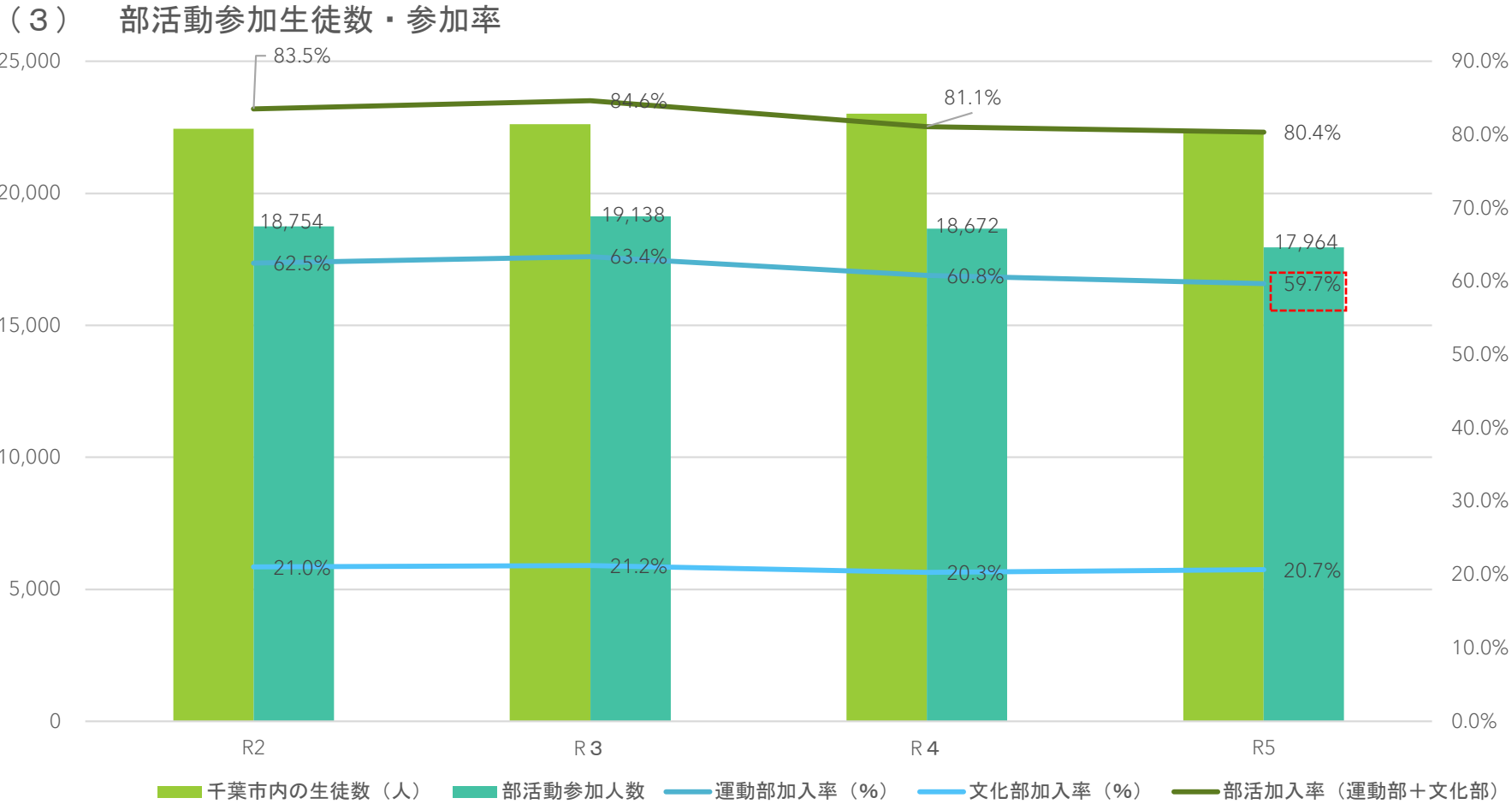
- ・R5は、10年前（H25）の約85%。1万9千人減。
- ・R7は、R5より約6千人減で、10万5千人を割り込む。減少傾向は続くことが想定される。

(2) 千葉市の生徒数推移



	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
中央区	3,895	3,888	3,983	3,887	3,877	3,814	3,852	3,924	3,916	3,903	3,796
花見川区	4,786	4,673	4,651	4,625	4,472	4,317	4,220	4,080	4,085	3,954	3,949
稲毛区	3,322	3,347	3,348	3,371	3,398	3,350	3,387	3,404	3,433	3,348	3,262
若葉区	4,126	4,067	4,044	3,995	3,928	3,774	3,657	3,580	3,589	3,571	3,584
緑区	3,940	3,973	3,985	3,964	3,959	3,848	3,783	3,694	3,750	3,693	3,643
美浜区	4,489	4,563	4,554	4,460	4,360	4,227	4,191	4,162	4,216	4,168	4,140

- ・H25年度24,558人と比較すると、R5年度は22,374人と、**約2千人減**。減少傾向が続くと、R7に2万2千人を下回る恐れ
- ・すべての区で生徒数は減少。特に花見川区（▲837人）、若葉区（▲542）の減少が大きい。
- ・中学校の生徒は、ピーク時の45,260人（S61）と比較し、**半減2万人以上減少**している。



- ・部活動参加率は、直近4年ではR3の84.6%をピークに低下傾向。R5は80.4%。（約1万8千人）
- ・文化部参加率は横ばいが続くも、運動部参加率は漸減傾向。R5は60%を下回り、過去最低を記録。

（４）部活動数及び参加人数

運動部

	種目		設置数	設置率	参加人数
1	野球		52	96.3	1,000
2	バスケットボール	女	50	92.6	1,050
3	サッカー		49	90.7	1,433
4	バスケットボール	男	44	92.6	1,266
5	バレーボール	女	44	81.5	1,081
6	ソフトテニス	女	41	75.9	1,067
7	卓球	男	36	66.7	1,013
8	バドミントン	女	34	63.0	915
9	陸上		32	59.3	1,294
10	卓球	女	32	59.3	465
11	バドミントン	男	30	55.6	739
12	剣道		25	46.3	481
13	ソフトテニス	男	17	31.5	446
14	バレーボール	男	14	25.9	354
15	ソフトボール		9	16.7	124
16	柔道		9	16.7	106
17	ハンドボール	男	8	14.8	205
18	ハンドボール	女	7	13.0	123
19	水泳		4	7.4	42
20	硬式テニス		3	5.5	27
21	ヨット		2	3.7	30
22	合気道		1	1.8	76
23	新体操		1	1.8	2
24	体操		0	0	0
25	相撲		0	0	0
	合計		543		13,339

文化部

	種目	設置数	設置率	生徒数
1	美術	47	87.0	1,520
2	吹奏楽	46	85.2	1,498
3	PC・情報・科学技術	14	25.9	408
4	科学（自然・理科）	10	18.5	280
5	演劇	9	16.7	181
6	家庭科	7	13.0	187
7	文芸（図書・伝統文化）	7	13.0	61
8	合唱	5	9.3	53
9	クラフト	4	7.4	101
10	ボランティア	4	7.4	41
11	囲碁・将棋	3	5.6	52
12	茶道	3	5.6	52
13	書道	2	3.7	23
14	英語（ESS）	2	3.7	27
15	写真	1	1.9	52
16	軽音楽部	1	1.9	52
17	弦楽オーケストラ	1	1.9	37
18	放送	1	1.9	7
19	学	1	1.9	39
	合計	168		4671

（５）平均部員数（１－３年生）の推移

	H27	R1	R5	減少
陸上	46	41	40	▼
水泳	24	13	11	▼
体操	45	8	0	▼
新体操	11	12	2	▼
野球	22	20	19	▼
サッカー	41	35	29	▼
バスケットボール（男）	26	24	29	
バスケットボール（女）	24	22	21	▼
バレーボール（男）	26	18	25	
バレーボール（女）	27	23	25	
卓球	43	51	41	
ソフトテニス	49	40	37	▼
ソフトボール	16	16	14	▼
バドミントン	59	53	49	▼
ハンドボール（男）	23	22	26	
ハンドボール（女）	19	16	18	
柔道	10	8	12	
剣道	19	19	19	

単位：人

部活動毎の平均部員数は多くの種目で減少が続いている。（１８種目中１０種目）

種別	区分	設置数
全体	最大設置数	19
	最小設置数	3
	中央値	11
運動部	最大設置数	14
	最小設置数	2
	中央値	7
文化部	最大設置数	10
	最小設置数	1
	中央値	3

部活動の設置数に大きな差が！！

19もの選択肢がある学校
3つの選択肢しかない学校

※ 男女に分かれていても、1つの部活動とカウント

	名称	主な内容
平成4年度	運動部活動指導者派遣事業	運動部活動の振興を図るため、専門的な指導が可能な民間指導者に、部活動の指導を担ってもらおう。
平成14年度	複数校合同部活動を実施	学校の小規模校化に伴う部活動の少人数化などを背景に、複数の学校が合同で大会に出場するなどの対応を実施。
平成30年度	部活動指導員の配置	専門的な指導のできる顧問がない部等に配置し、学校における部活動の指導体制の充実や顧問の勤務負担軽減を図ることを目的とし、単独での部活動指導ができる部活動指導員の配置を実施。
平成30年7月 平成31年3月	千葉県運動部活動ガイドライン 千葉県文化部活動ガイドライン	生徒のバランスのとれた心身の成長を促し、充実した学校生活を送ることができるようにするとともに、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフ・幅広い活動を実現するための資質・能力の育成を図るため策定。
令和3・4年度	部活動地域移行モデル事業	スポーツ庁委託事業として、部活動の地域移行に向けたモデル事業（地域スポーツクラブ、民間事業者への委託）を実施

1. 体制整備

部活動地域移行推進協議会を設置し、学校関係者、保護者、市内スポーツ・文化芸術の関係者などが参加し、本市にふさわしい、持続可能な部活動の地域移行の在り方について検討

地域移行を推進するため、地域移行に関する専任の職員を教育委員会内に配置（部活動地域移行担当課長、主任指導主事、統括コーディネーター等）し、庁内・外との連携を強化し、地域移行を確実に進めていく。

2. 実証事業

スポーツ庁・文化庁の委託事業を受託し、地域移行に関する実証事業を実施。

実施に当たっては、令和３・４年度の実証事業での明らかになった課題（実施主体、コーディネーターの確保など）を解決することを目的とするとともに、対象校・部活動の規模を大幅に拡大し、文化部（吹奏楽部）も含め、１８校２６部活３７０人が参加した。

3. 児童生徒・保護者・教職員へのアンケート

（１）中学１・２年生、小学校４・５・６年生、保護者、教職員等対象のアンケートの実施

部活動の活動状況やスポーツクラブ・習い事などの学校以外でのスポーツ・文化芸術活動、地域クラブへのニーズ等を把握するため、児童生徒及びその保護者を対象とするアンケートを実施。教職員に対しては、部活動の負担感や兼職兼業に関する意識調査を実施。

（２）実証事業事前・事後アンケートの実施

地域移行の課題を洗い出しするため、事前・事後に関係者に対してアンケートを実施。

	R5	R6	R7	R8
休日の部活動 地域移行	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域移行・地域連携の実証事業「運動部(12)・文化部(3)の15部活」を対象とする実証事業 ・ R6実証事業対象校の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域移行の対象校を拡大し、30拠点(60部活)程度で実証事業を実施 	<p>すべての中学校(54校)で、複数部活の実証事業を実施。</p>	<p>休日部活動 完全地域移行</p>

改革推進期間(R5～R7)において、地域クラブ移行の対象部活学校(実証事業対象部活)を段階的に増やし、改革推進期間終了後の令和8年度中*に、休日の部活動は全て地域クラブへ移行することを目標とする。

※ 移行時期は総体等の関係から令和8年度の夏以降を想定

部活動の地域移行によって、
 全ての中学生に対して通う学校に関わらず
「自分の好きな事を」 「自分で決めて」 「チャレンジできる」
 環境を提供する。

1. 参加校数 18校26部活（9種目 運動部8種 文化部1種）
2. 生徒の参加状況 生徒数 408人中、373人の参加。（参加率 91%）
3. 地域指導者 人数 :36名（男性29名、女性7名）
職業 :会社員(12)、自営業(9)、学生(6)、教員・公務員(5)、専業主婦(1)など
経歴 :中学・高校の部活動経験者、現役実業団選手、地域スポーツ・文化芸術団体所属社会人、大学部活動所属学生、スポーツ専門学校学生など
4. 実施回数 令和5年10月上旬～2月末で、平均15回（最大18回、最小10回）の活動
5. 効果測定
 - ・ 生徒の満足度は約75%、保護者約74%と過去のモデル事業よりも満足度は低かった。
 - ・ 指導方法が自分に合わなかった、期待したほど専門ではなかった、などを挙げる者が多い。
 - ・ 適正と考える月負担額は、1,000円程度が最も多く（約32%）、次に2,000円程度（19%）
 - ・ 指導者の確保から研修、配置までに一定程度の期間が必要となる。（2か月程度）
 - ・ 学校との連携（活動日に関する調整、顧問との連携）、大会引率の対応などが顧問の不満足要因

1. 趣旨：本市における部活動の地域クラブ移行を検討するにあたって、当事者となる児童・生徒やその保護者、また現在顧問として部活動運営に携わっている中学校教員等に対して、部活動や地域クラブに対する意識などについて調査し、部活動地域移行推進協議会での基礎資料とするため、アンケートを実施するもの。
2. 実施期間：2月16日（金）～3月12日（火）
3. 回答者数：19,233人／87,934人

対象	回答方法	回答者数	対象者数	回答率
中学生（1・2年生）	千葉市学校・家庭間連絡システムにより、回答先URLを配布し、各自端末で回答	4,148	14,379	28.8%
小学生（4・5・6年生）		5,040	22,672	22.2%
中学生保護者		2,869	14,379	20.0%
小学生保護者		4,330	22,672	19.1%
中学校教職員	学校宛依頼。回答用URLを配布し、各自回答	944	1,608	58.7%
小学校・特別支援学校教職員		1,644	3,111	52.8%
千葉市役所職員	庁内ポータルサイトにて案内し、各自回答	258	9,113	2.8%

I. 認知度

- 地域移行の認知度は、中学生63.1%・小学生38.0%、中保護者83.8%・小保護者72.0%
- 中学生の休日の地域クラブへの参加意向は、参加するが38.1%と低調。

ただし、認知度と参加意向は相関関係が見られ、認知度向上が参加意向向上につながるものが想定される。

II. 保護者の地域クラブへ求める要件

- 保護者にとって、地域クラブで重視する事項としては、活動場所が身近であることが最も多く(20.9%)で、次いで、緊急時やトラブル時の対応(17.1%)、指導者の人柄や経歴(16.6%)となっている。
- 費用負担については、月額2,000円程度が最も高く、35.2%(中36.8%、小34.1%)である。
次に高い割合は、中保護者が1,000円程度(21.5%)、小保護者は4,000円程度(22.5%)

III. 教職員の意識

- 顧問の専門性については、競技経験が無いと答えた者が44.1%と最も多い。中・高・大の経験がある者が約20%で、中・高が約10%と、専門性がある顧問は限られている。
- 負担感は、67.7%が負担感を感じていると回答（とても感じている32.2%、感じている35.5%）しており、負担感を感じている教員が多くを占める。
- 負担感軽減のための取るべき施策としては、部活動指導員の配置（21.6%）や会計などの事務処理（17.2%）と回答する教員が多い。
- 中学校教員のうち地域移行に反対する者は18.5%（175人）で、その理由として部活動の教育的価値を選択する者が最も多く（67.4%・118人）、次いで、生徒指導上の問題が発生する恐れ（66.3%・116人）、経済的な理由で参加できなくなる恐れ（31.4%・55人）であった。

IV. 地域指導者の掘起し

- 467人の教職員が地域指導者として活動を希望（場所や回数などの条件があえば指導をしたいと回答した者（324人）を含む）
- 保護者も146人が指導してみたいと回答をするなど、潜在的な指導者としての活躍が見込まれる。

1 背景

保護者などから、地域クラブ移行後の、中学生のスポーツ文化芸術環境の将来像を示してほしいとの声が上がっている。

地域移行に関する関係者の理解を深めるためにも、地域移行のイメージや、休日だけではない、平日部活動の在り方、地域クラブ完全移行後(部活廃止後)の中学生のスポーツ・文化芸術環境などの全体像を提示する必要がある。

2 検討事項

- ・部活の代替えとして、生徒にどのようなスポーツ・文化芸術活動環境を提供することを目指すのか。(将来像の提示)
- ・休日の地域クラブ活動で提供する環境(将来像を見据えた環境の構築)
- ・平日の地域移行も見据えた部活動の在り方(現在抱える部活の課題を解決しつつ、地域移行へ向けた取組み)

ステークホルダー	提示による効果
生徒・保護者	地域クラブ移行がいつ、どのように行われていくのか、将来的なイメージを提示することにより地域移行への理解が深まる。
地域指導者・競技団体	部活動の地域移行に対して、具体的ななかかわり方がイメージできるようになり、指導者の掘起しにもつながる。
教職員	スケジュールの提示による地域移行の理解促進協力・兼職兼業による指導者の掘起し

【部活が抱える課題】

生徒: 少子化などから部活の規模縮小、日常活動が難しくなりつつある。学校規模によっては、部活数に大きな差が出ている。

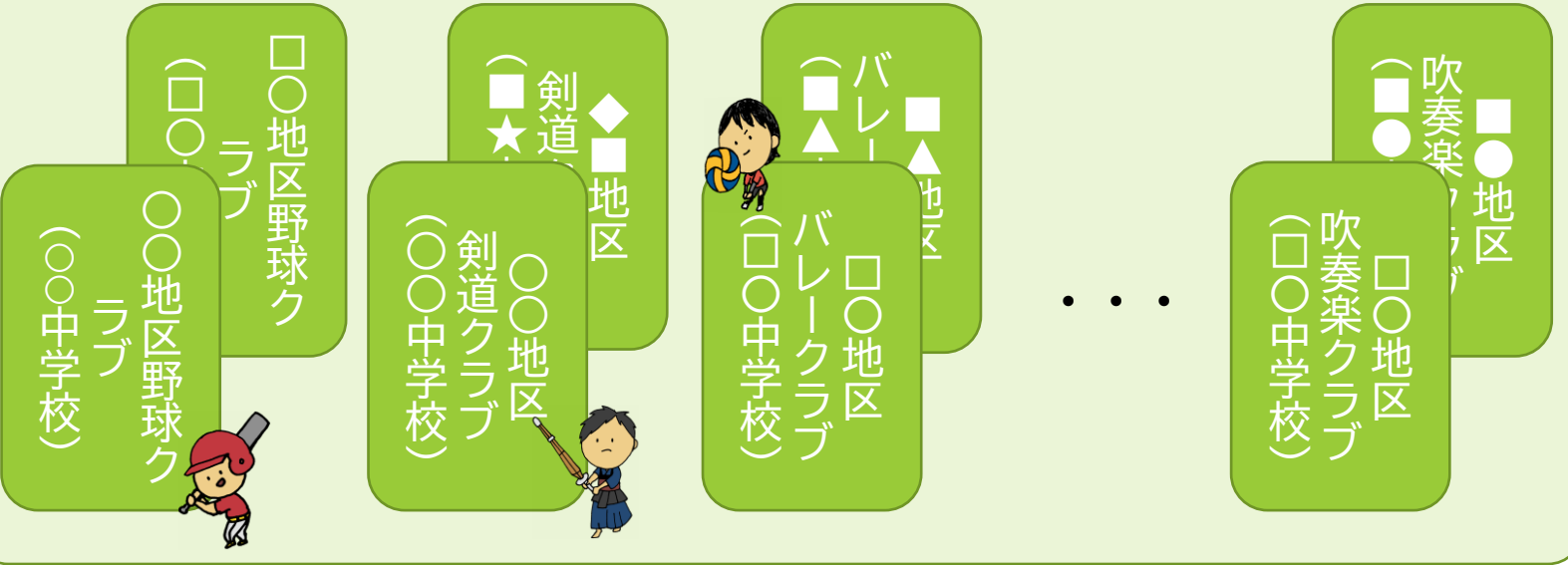
教員: 教員を取り巻く環境の変化、価値観の多様化などから、顧問、特に主顧問の負担感が大きくなっている。

令和8年度に想定される休日の地域クラブ移行の姿（案）

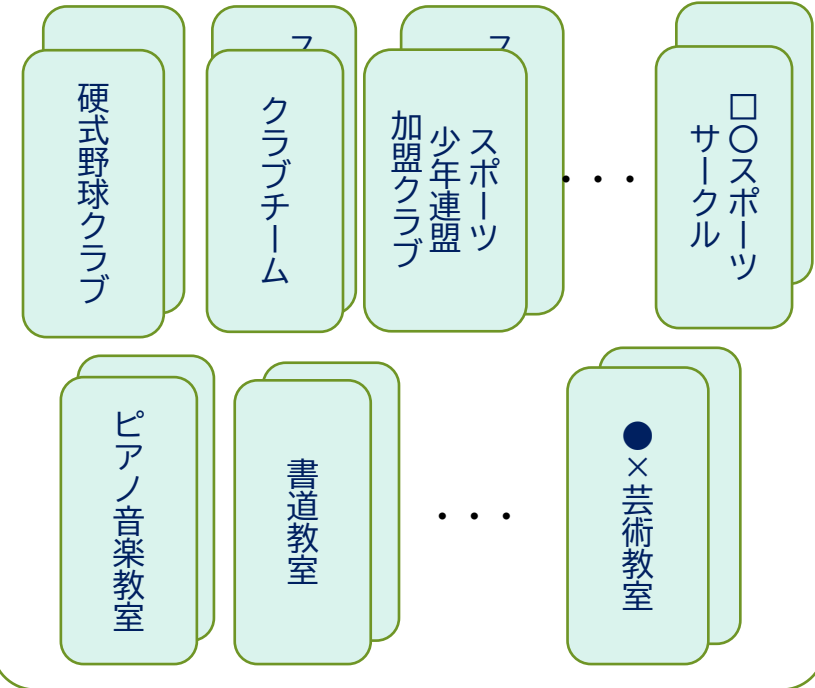


千葉市から委託された事業者が市内全域で部活動の代替えとなる地域クラブを運営

千葉市休日地域クラブ（仮称）



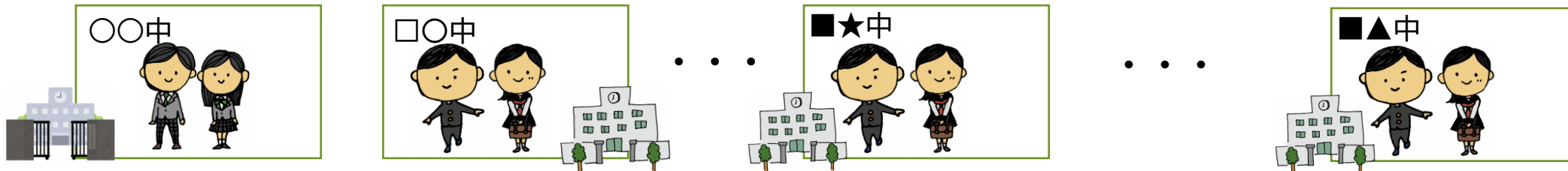
地域で行われている民間スポーツ・文化芸術活動



自分の好きな活動に参加。

平日の部活動と同じ活動に参加。

市内に在住する中学生



(1) 令和6年度実証事業

ア 規模の拡大

15拠点(26部) → 30拠点(81部)

イ 参加校の拡大

18校/54校 → 41校/54校

ウ 実践的な取組

- ・拠点・合同での活動を基本とし活動拠点の集約化。合同13部→拠点・合同55部
- ・千葉県地域クラブ活動等指導者人材バンクシステム[ちばクラサポ]の活用による指導者確保
- ・JFAコーチング研修の受講
- ・各種大会引率
- ・ICTを活用した情報共有(保護者・指導者・学校・運営事業者)
- ・地域団体と連携した学校部活動以外の受け皿となる地域クラブ活動の掘起し



より実践的な実証事業の実施を行い、全市展開に向けた検証を実施

- 全市展開に向けた運営体制の整備
- 指導者の掘起し・育成
- 運用経費と費用負担
- 既存のスポーツクラブ・文化芸術クラブとの関係性